

☆次は海底探検による

世界一周旅行

足立 ご苦労さまでした。太平洋  
横断、大変だったですね。横浜と  
神戸に二回入港され、歓迎されま  
したけどその印象はどうでした？

鹿島 やはり、神戸は長い間住ん  
だ自分の生まれ故郷ですから。そ  
れに、横浜では、迎えてくれた人  
々がほとんど報道陣なんですね。こ  
ちらは市民の方たちが迎えて下さ  
った。それだけに感じがちがいま  
すね。やはり、神戸に帰ってきたん  
だとホッとした気持になります。

足立 そうでしょうね。まだ、疲  
れがぬけきらないと思うのです  
が、幾晩ぐらい寝たら、疲れはと  
れるもなんですか？

鹿島 一晩寝たら、とれるんじや  
ないですか？（笑）

足立 新聞にでていましたけど、  
次は東南アジアですね。

鹿島 これで完全に世界一周にな  
ります。大きな船で、四、五人で  
いくわけですが、東南アジア—  
インド洋—紅海—地中海—大西洋  
—西インド諸島……と全部の海域  
になりますね。そして海底の仕事  
をします。船は、二十五トン位で  
す。でき上がったら、日本で二番  
目かな。一番でつかいのは森繁さ  
んのヨットですから。

足立 いつ頃から出かけたいとい  
うおつもりですか？



# 冒険と恋と神戸

■ゲスト=鹿島郁夫 ■きき手=足立巻一



鹿島郁夫氏

鹿島　来年の夏に船を浮かして、日本近海でテスト航海と、水中でもぐるための機材を開発しておりますから、その機材のテストと改良を重ねることになりますけれど、だいたい来年の十一月頃になると思います。

足立　今度は期間はどの位ですか

鹿島　まあ、二年ですね。ぼくとみては三年位はしいのですけど、三年も家をあけると、いろいろ障害がでてくるので、しようがありませんわ（笑）

足立　未知の世界を探りたい／

足立　海底のどこに興味があるわけですか？

鹿島　結局、未知の世界ですからね。海底のことは何も知らないのだから、どこに入つてもおもしろいと思います。専門的には、いろいろあると思いますけど。

足立　やっぱり、未知の世界を探りたい？これが一種の本能みたいになってるんじゃないですか？鹿島さんの場合。

鹿島　しかし、誰でもみんな、未知の世界に対する興味はあると思いませんけれどね。ただそれができないかの問題で、だからぼくは、それができない人のために写真を撮ってきてあげたい。

足立　今、一番もぐりたいと思う

足立　未知の世界を

鹿島　海中にはいると、サンゴがあって、いろんな魚が泳いでますよ。特に熱帯地方の魚というのは、原色で色彩がとてもきれいです。

足立　やはり夢の世界です。別世界です。

鹿島　海中にはいると、サンゴがあって、いろんな魚が泳いでますよ。特に熱帯地方の魚というのは、原色で色彩がとてもきれいです。

足立　未知の世界に対する学術的な興味というより、むしろ美学的な、唯美的な興味が中心といった風ですね、その場合。

鹿島　それもあります。しかし何かしら魅力がありますね。

足立　それから、自分の限界をためめすという気持もありますか？

鹿島　今のところ、潜水ではありますけれど、もっと若い時分でしませんけど、もつと若い時分でしたら、何時もぐれるかという記録もあるでしょうけどね。これは肉体的条件が加わってきますから。

足立　そこなんですよ。私たちが

鹿島　どこの海でも魅力ありますけれど、南太平洋がいいですね。その他ですと、西インド諸島、カリブ海ですね。海が非常にきれいですよ。水面から下をのぞくと、十数から二十数㍍ぐらいまで見えますね。人が入つて行くと、小さくなっていくのが、上から見えますものね。それに海の色がちがいます。足立　どんな色ですか？

足立　コバルト色ですよ。

足立　もぐつてていく場合に魅せられるのは、色ですか、それとも魚とか……。

鹿島　それもあります。しかし何かしら魅力がありますね。

足立　それから、自分の限界をためめすという気持もありますか？

鹿島　今のところ、潜水ではありますけれど、もっと若い時分でしませんけど、もつと若い時分でしたら、何時もぐれるかという記録もあるでしょうけどね。これは肉体的条件が加わってきますから。

勇気を与えられるのは、若い人がどんどんやるのなら、これはまあ

若さと体力でということですけど

鹿島さんの場合、中年になしかか

つて、自分の条件を考えコント

ロールして、知的にしかも片一方で芸術的な未知の魅力も失わず、やつておられるということに、ぼくなんか、非常に興味がでてきたわけですよ。

☆いやー、もうコリゴリですわ

足立 航海中楽しかったことは、

たくさんありましたか？

鹿島 あんまりないですね。苦し

いことの方が多いですね。

足立 これはうれしかった／とい

うようなことはないですか？

鹿島 あんまりないですね（笑）

足立 シケの場合には、かなりの予想がつくんでしょ？

鹿島 ええ、シケの時は、何らかの徴候がありますし、このシケがおさまるだろうということも何らかの前ぶれで分ります。ですからシケに対する恐怖感はありますけど、シケがあるのはあたり前のこ

とですから、そうでもないです。

ただ今度の場合、船が小さくて、積んでいる食糧や水が少なかったので、それに対する苦しさというのがありましたね。結局、そういう欲望に対する鬱いですよね。食糧がない、水がないというわけ

足立 でも、日が経つてくると、その苦しかったことが、楽しいものに変ってくるんじゃないですか？

鹿島 いやいや、もうコリゴリだ

足立 そうですか？ それでもまた行くんじゃないですか？（笑）

鹿島 今度は条件がちがいますので、船も大きいし、食糧もたくさんつめる。ただ人間が多くなりますから、人間関係の問題がはいつ

てきますけれどね。

☆人間の本能は食欲が一番

足立 船の上で、よくビフテキと奥さんのことを見たと週刊紙などには書いてありましたけど、そ

んな心境になるのですか？

鹿島 そりや、なりますね、まず一番よく考えたのは、食うことですよ。何か食いたい、うまいもん食いたい。はじめはうまいものですけど、だんだんおちてきて、何でもいいから、腹いっぱい食いたい（爆笑）と思いますね。

足立 それから家族のことは？

鹿島 何がある時には思い出しますけど、そう長い時間は思い出しま

で、それと毎日、闘っているわけです。

足立 長い日数ですからね。

鹿島 何しろ九キロやせましたからね、一〇〇日で。すごく苦しかったですよ。



足立 巻一氏

ませんね、瞬間的ですね。

足立 そうすると、人間の本能で一番強いのは、食欲ということですね。

鹿島 そうですね。それがなかつたら生きてゆけないもんですから

足立 戰争に行つた人の話ですと何が一番つらかったって、食い気

と闘うことですよ、色氣なんか問題じゃないといいますよね（笑）

鹿島 そりや、そうですよ。ます

食つて寝て、それからが、人間の世界じゃないですか。

鹿島 イヤ、寝れないですね。一

人ですから、島に入った場合なんか起きておく必要がありますか

足立 寝る方は、ヨットの上で楽

にねむれるわけですか？

鹿島 イヤ、寝れないですね。一

人ですから、島に入った場合なんか起きておく必要がありますか

足立 寝る方は、ヨットの上で楽

にねむれるわけですか？

鹿島 もっとスマートな名前をつ

けようと思ったんですけど。

足立 スマートでないところが、

ええどこですよ（笑）

鹿島 いろいろ考えてもピッタリする名前がないので、名前もつけ

ずに進水したんですけど、九州一

周した時、感じたんですが、これは

どうもスマートな名前をつけるよ

うな船ではない。とくに太平洋を横断するとなると、こっちがかけ声をかけてやらないとどうにもし

ようがないんじゃないかな。こっち

が音頭をとりながら走らなくちゃ

ならない。それならいつそのこと

「こらさ！」にしてやろう。（笑）

足立 行と恋愛と読書ね。

鹿島 ウーン、そうですね。旅

行と恋愛と読書ね。

足立 旅行もね、やっぱり未知の

ものに対する空間的な探検でしょ

まいにどうも（笑）それで、よし

じやあ、『コラーサ』にしてやれ

と思って名づけたわけです。それ

と名前がもう一つあるんですよ。

今度つくる船は大きな船ですので

上陸用のボートをつむんですけど

その船の名前が『エンヤー号』な

んです。下の本船が『コラーサ号

### ☆エンヤー号とコラーサ号

“で、『エンヤー、コラーサ、エニヤコラーサ』（爆笑）というわけです。

### ☆冒險と恋と読書

足立 ハムスターをつれていかれましたね、あれは、やはり何もな

いとさびしいからですか？

鹿島 いえ、はじめは考えていませんでしたが、アメリカのアマチュアの無線の友達がつんでいけと

いうわけで。それと気にいったのは女の子だったので（笑）女性な

らつれていくこうかというわけで

（笑）

足立 やはり女性だからね。私の

考えでは旅行、その中でも極端な

場合は冒險で、その場合には、

旅行と恋愛と本を読むことは、

だいたい同じようなことじやない

かと思うんですけど、いかがですか？

鹿島 ウーン、そうですね。旅

行と恋愛と読書ね。

足立 旅行もね、やっぱり未知の

ものに対する空間的な探検でしょ

まいにどうも（笑）それで、よし

じやあ、『コラーサ』にしてやれ

と思って名づけたわけです。それ

と名前がもう一つあるんですよ。

今度つくる船は大きな船ですので

上陸用のボートをつむんですけど

その船の名前が『エンヤー号』な

んです。下の本船が『コラーサ号

秋のオシャレに  
優雅さをそえる  
マキシンの帽子



マキシンの帽子のおもとめは  
全国有名百貨店でどうぞ

マキシン

神戸・トアロード 東京・銀座3-2

TEL (078) 33-6711-8 TEL (03) 535-5041



神戸つ子のセンスを生かす

\*服飾  
**K  
E  
I** の店

生田区三宮町三丁目五七  
大丸前服部宝生眼鏡店二階  
TEL 三三・七五五〇

## \*花隈だより

### りん子さん

①あなたの特技は………。

日本舞踊です。花柳流で6年間習いました。清元・茶道・鳴物・自動車運転。

②お酒は強い方ですか？

おつきあい程度でブランデーか水割。  
<ブランデーは1本あけますか?><まあ>  
(ニヤニヤ)

③あなたのお好きな男性のタイプは？

あんまりハンサムな人はいやですね。  
背が高くてとっても明朗な人。

④古紋の献立の中で一番お好きなものは？

お豆腐の天ぷらとあゆ

⑤休みの日には何をしていますか？

音楽を聞いてポケット本を読んでいます。

⑥今どんな本を読んでいますか？

推理小説。

⑦音楽は？

ポピュラー。

⑧今もし100万円もらったら………？

まっ白な家具を買物します。

### 割烹



神戸市生田区花隈町45

でんわ 34 0240

営業時間 P.M. 5:00~A.M. 1:00  
気軽なカウンターで日本料理をどうぞ



女だと思うし、恋愛みたいなものが基調になつてゐると思うんです

けど、どうですか？ ハムスターが女性だというのを思つたんで

すけれど（笑）やっぱり女性つていうのは必要でしょ？

鹿島 そりやそうですよ。女性をぬいてものごとは考えられないですよ（笑）

### ☆冒険心を育てた神戸の海と山

足立 冒険ということは、子供の時からお好きだったんですね？

鹿島 まあ、子供の頃からよく海に出ておりましたね。灘に住んでおりましたから、海が近かつたので、よく泳いでました。

足立 海が好きだったわけですか？

鹿島 ええ、好きでした。冒険的なことが好きでしたね、海がある里には山があった。探險隊ごっこなんかしてよく遊びましたそんな環境で育ちましたからね。そういう意味では、純粹な神戸っ子です。

足立 その場合にお父さんとかお兄さんとかで、そういう面にかりたてる要素があつたわけですか？

鹿島 私の家庭の雰囲気では、そんなものはなかつたんですけど、母方の親せきは、みんな船乗りなんですね。それが直接、関係があるとです。それが直接、関係があると思いませんけど。

足立 兄弟は？

鹿島 妹だけです。

足立 じゃあ、長男で大事に育てられたわけですね、どこそこにいってはいけないとか。

鹿島 いや、その点、ぼくは、悪かってね。近所の鼻つまみもんで、みんなにきらわれてましたよ（笑）

足立 お父さんは何をしておられるですか？

鹿島 父は小学校三年の時に死にました。妹と母だけですから、好き勝手なことをしております。

足立 じゃあ、お母さんは、ずいぶん苦労されたわけですね。

鹿島 今でも親不孝なので（笑）

足立 しかしよいお母さんですね

鹿島 うちの母も理解してくれておりますけれどね。理解してくれるのか、理解させたのか（笑）

足立 分りませんね（笑）最近ではかなり僕がスタートした五、六年前とは考え方方が変つてきてます。

### ☆女性の力は偉大

足立 それと奥さんの理解をどうして得たかということですが。

鹿島 長い間の準備期間に、教育しました（笑）出発する前から、

今度の航海から帰つてくれば、こういう計画があるんだと予告してありますので別にどうしたことないですよ。

足立 いつしょになられる時、こ

ういう計画があるんだとお話をなったんですか？

鹿島 いや、それは……（笑）その頃は、まだ形としてはつきりまとまってなかつたし、漠然としたものだったですからね。

足立 いよいよやるんだという時に、奥さんは何といわれました？

鹿島 その時は、すぐ近くで、日本近海だったので、魚つりにいくみたいなもので気軽にでした。それがだんだん距離が延びてきて、一日が二日になり、一週間になり、ひと月という風に、自然に延びていったわけです。だから案外、抵抗はなかつたですよ。

足立 しかし、やっぱり太平洋になると……。

鹿島 はつきり正面だつては反対しなかつたけれど、気持の上では心配したでしょうね。どうにかいつてみたって、自信はあるにしても、危険はありますからね。99%確信もついていても、1%の危険の可能性はありますからね、安心はできませんよ。

足立 やはり、人間の本能として土地に執着する。男というのは狩をしていました昔から、外にでていくのですよ。そういうのが、男と女の本性のちがいみたいなもんでしょうかね。ところで奥さんとかけおちしたという話を耳にしました

が、あれは本当ですか？もちろん恋愛結婚でしょ？

**鹿島** そうですね。（笑）

**足立** 今の奥さんは、非常に気に入っておられるわけですか？

**鹿島** 理想というのは完璧ですかから、それはあり得ないですよ。

**足立** どういうところを気に入つておられるわけですか？

**鹿島** まあ、何でもいうことをきいてくれることじゃないですか（苦笑）こうして七年間もヨットに乗つますけど、僕のもっているエゴイズムを通してれますからね

**足立** 夢を育てることに託しているということは、大事ですね。あなたたちがつた女性といっしょになつたら、またちがつてきてるかも分りませんよ。女性の力は偉大だから（爆笑）

### ☆日本を脱出すれば六割成功

**足立** ヨットでも何でも、やはり先立つものは金でしょ？これを捻り出するのに、ずい分苦労されたのでは？

**鹿島** だいたいこういうものはね日本を無事でればまず六割成功です。太平洋の横断も、ぼくはアメリカに積み出しましたけど、他の船について日本を出れば、まず太平洋を六割横断したのも同じです。金があつまなくて、計画の段階でつぶれてしましますよ。金

があつまれば、だいたい半分位成功したも同じですね。あとは必要なものを買い集めて準備すればいいわけですから。それで日本を出る。するともう六割成功です。

**足立** その場合に、神戸の人たちは応援してくれましたか？

**鹿島** 神戸の人とは限りませんけれど、やはりぼくに身近かな人たちですから、神戸っ子が多いですね

**足立** 資金あつめということは、なかなかシンドイことでしょ？

**鹿島** まあ、太平洋を横断するより、資金あつめの方がシンドイですか？

**足立** やはり情熱でくどくわけですか？

**鹿島** 結局、それは体験を積み重ねていく上で、ある程度の信用をふやしていく。それと情熱ですよね。やりたいという意志がはつきりでおれば、あいつはあれだけの体験があるし、あいつだつたらやれるんじゃないかと、応援してくれる人もでてくるんじゃないですかね。

**足立** 今回、横断するのに、どれ位に目標をおかれたんですか？  
**鹿島** 百八〇万円です。  
**足立** ヨットを造つたりする費用もいれてですか？

ね。やりたいという意志がはつきりでおれば、あいつはあれだけの体験があるし、あいつだつたらやれるんじゃないかと、応援してくれる人もでてくるんじゃないですかね。

### 笑

#### ☆自転車日本一周とヨット世界貧乏旅行

**足立** ヨットに乗られたのは、何年ごろからですか？

**鹿島** ぼくはスタートが遅いんです。本格的に乗り出したのは、十

二、三年前位です。

**足立** 最初に海と山のある神戸に育ち、それが、どういう形でヨットと結びつくのですか？

**鹿島** その過程は複雑でしてね。

何か冒險的なことをやりたいと思ってたんですね。サイクリングなんかもやりました。終戦直後ですけどね。自転車で日本一周をしてやろうと計画しましたが、その

**鹿島** 一千五百万円位です。

**足立** その間の奥さんの生活費は入ってるんですか？

**鹿島** 今度は五ヶ月いなかつたので、二十五万円位ですね。

**足立** ああ、そうですか。それにしても一八〇万円で太平洋横断とは、割合、安いですね。

**鹿島** それは、ぼくのアイディアでヨットを小さくして、費用をきりつめたわけですよ。もつとヨットを大きくすれば、三〇〇〇万円位かかります。そこらが苦しいところで、一〇〇万円節約したことになります。そのため食糧がつめなくて、ぼくは九キロやせました（笑）一キロ、十万円です（爆笑）

頃は食糧事情が悪くてね、とうていできない。それから、オートバイに熱中したりね。それが何かの機会に海と結びついたんですけど

足立 ある日突然に? どうもそのつながり方がよくわからないんですが……。

鹿島 それは未知の世界とか、冒険的なもののつながりですよね。

足立 型としては、終戦直後は、サイクリング、次は何だった?

鹿島 次はオートバイで世界一周でした。が、結局ガソリンが高くついたり、その時に車がなかつたりで、ついに実らずに終わってしまったんです。次は自動車です。

足立 これは何でアカなんだのですか?

鹿島 その頃、ちょうど、朝日新聞の辻さんがロンドン—東京をやったわけですよ。それで、バカラしくなって、それに、自動車事故で、脳内出血する大ケガをしましたのでやめてしまつたわけです。その頃から、ヨットを平行してやっていたわけです。車は、すごく金がかかる、運搬費とか、ガソリン代とか修繕代とか高くつくわけですよ。その時分から、ヨットに目をつけて、世界一周を考えておりましたからね。まず燃料代がかかります。ただだし、食料品もいっぱいこんでいる。まあ、動く家

ですね。それで非常に魅力を感じましたね。ところがヨットは高かったです。大型ヨットだと、二、三百万かかる。これでは、ちょっといけない、少し躊躇しておつたんですけれど、車がダメだと決定しましたから、ヨットに力を入れました。それです、安いヨットをつくる方法を考えました。

足立 ああ、なるほどね。

鹿島 いろいろ調べていくと、ベニヤ板でもできるのが分って、これはいいと、それから、だんだん長さを縮めていくと、これでも走れると、スペースをきりつめていて、ギリギリの線があります。設計する時に、論争したり、反対されたり、抵抗もありましたが、

足立 すると、ある意味では、貧乏旅行みたいなもんですね。

鹿島 そうですね、金がないため、いろいろアイディアがでてくるわけですから。

足立 その点、案外理解されてないんじゃないですかね。ヨットというイメージからいうと、金持の道楽で、ずい分金がかかるというイメージがありますけど。

足立 その点、案外理解されてないんじゃないですかね。ヨットというイメージからいうと、金持の道楽で、ずい分金がかかるといふつもりです。

足立 神戸が背景になるでしょう

育ててくれた土地ですから。

☆あらゆる人生体験を結集して

足立 その頃は、仕事の合間にやつておられたんですか?

鹿島 そうですね、その時分は、水道筋三丁目の商店街で写真の材料店をしておりました。案外時間はあつたんで、ヨットに乗つておりましたけど、あんまり遊ぶ

ので、店が倒産してしまいましたけど(爆笑)、かんじんの経営者がいなくて、他人まかせのものだから、それに金をどんどん使うばかりで……(笑)

足立 戦争の頃は、まだ子供ですか?

鹿島 中学はどこでした?

鹿島 北神商業なんです、鈴蘭台のね。勉強がきらいで、何とかして勉強しなくてすむようにと(笑)

足立 でも戦争中ですから、あまりしなかつたたですけれどね。

足立 勤労動員なんかは?

鹿島 ぼくは無線ができますので特別に東芝の工場に行きました。

足立 そんなものが、今度の場合にも役立つてたんですね。

鹿島 それから、かなり長い間電気関係の仕事をしてましたから。

足立 そんなものが、今度の場合にも役立つてたんですね。

鹿島 それでラジオもみんなは反対しましたけれど、積んだわけです。小さなヨットで、小さなラジオですからまず電波は届かないだろうとい

う意見が多かったんですけど、ぼくは9割まではダメでも1割の可能性があれば、やってみるんですやつてみるとうまくいきましてね足立 そうすると、今までの人生体験がすべて集められたという感じがしますね。

鹿島 ヨットの場合、いろんな科学の集結ですから、一人で行くとなると、ある程度の医学の知識や気象学も必要ですし、その他船の構造や力学的なことも必要ですしあるんな知識が必要ですよ。それからヨットの動かし方も必要だし、ぼくは造船の方も、船の設計も好きですから、自分で勉強しましたけれどね。

足立 職業としては、写真材料店のほかには?

鹿島 アルバイト的な仕事が多いですからね。長い間やったのとしては、写真材料店と電気の仕事ですね。ラジオなんか子供の頃鉱石ラジオをつくったりしてましたから。

足立 そんなことが全部、役に立つておりますね。

☆引金を引くまでの緊張感

足立 スポーツは何を?

鹿島 射撃をずっと長いことやつております。

足立 ほう／射撃ですか？

鹿島 ライフル射撃です。

足立 どういうわけで、ライフル銃なんかが好きなんですか？ カンの養成という点では、ライフルとヨットのはどうですか？

鹿島 カンでは結びつかないですけど、船酔と射撃はつながります射撃の上手下手はある程度、体质的なもので、三半規管の働きなんです。射撃の場合、こうして撃ちますからね、(射つ格好をする)銃のバランスということがあるわけで、それは三半規管のバランスできまりますからね三半規管の敏感な人は、船酔しないんですよ。

足立 射撃の要素としては、冷静さとバランス神経と眼ですね。敏感な人は、船酔しないんですよ。時間が好きなんです。緊張感ね、引金を引くまでの時間ですよね。そして引いた時、バーンと音がする。あの豪快さ、その緊張とそれから解放された時の気持ですね。

足立 ヨットで航海している間は標的をねらっておりりますね、ああいう時間が好きなんです。緊張感ね、引金を引くまでの時間ですよね。そして引いた時、バーンと音がする。あの豪快さ、その緊張とそれから解放された時の気持ですね。

足立 ヨットで航海している間は標的をねらっていたわけで、パンと音がした時は神戸についていたというわけですな(笑) 射撃と似たようなもんだなあ。

鹿島 何やデッカイ射撃ですか？ 笑) ミサイルみたいなもんですね

足立 じや、今は解放されて、一番気分のいいときですか？

☆ぼくはロマンティストですよ

足立 浮氣心というのは起りませんか？

鹿島 そりや、いつでもおこりますよ(笑) 僕はいつでも海に出れば、生と死の間に立ってるんですけど、平気で走っているようですが、結局、緊張の連続ですね。陸に

上がるとき、何か解放感を求める。それが浮氣心じゃないですか？(笑)

足立 奥さんをだいぶ泣かせてる気持が分りますね(笑)

鹿島 昔の船乗りが、"港々に女あり"といつてましたけど、あのやはり男性的ロマンティストかな

足立 僕は、ロマンティストですよ。

足立 それと同時に、一へん目にものをみせてやろうとか、してやろうとかいった反骨精神はなかたですか？

鹿島 そういうことは、あまりないですね、ぼくの場合は、ロマンティストで、子供の時分にもつた夢をね、今まで追い続けてきたという方が強いですね。

☆可能性の限界を広げる

足立 読書なんかは？

鹿島 ノンフィクションが好きですね。海の関係のものとか、秘境のなんか好きですね。

足立 尊敬する探険隊は？

鹿島 フランス人で、クスト大佐です。海底を探険したりアクアラングを発明した人ですね日本で封切られた映画では「青い大陸」とか「光の届かぬ世界」とか、そういうのがあります。

足立 共通したこととか、学ばなアカンというようなことは？

鹿島 彼らは、一つ一つ体験を積み重ねていって、可能性の限界を広げていておりますから。

足立 締密なそれでいて、合理的な、そういう点じゃないですか。

鹿島 まあ、そうですね、うらやましいと思うのは、日本の場合とちがって、冒険とか探険とかに多くの人たちが理解し、援助してますね。実績があるからでしょうね。

鹿島 結局、戦争も外に出る力です。

鹿島 まあ、そうですね、うらやましいことは、国が栄えていくということです。

足立 あなたの結婚の場合にも、あてはまるんじゃないかな（笑）

鹿島 えらくまた、話が飛躍しましたが（笑）

足立 奥さんを略奪したんじやないかと思いますけど（笑）そうじやないですか？

鹿島 いやいや、かけおちしたんですね（笑）お互の意志ですよ。しかし、結婚といえば、冒険じゃないですか、ある意味では。太平洋を横断するより、もっと冒険じゃないですかね。

足立 そりや、もう分らないんだ

力に応じて、海洋探険とか冒険の数が比例しますね。やっぱりア

メリカが一番多い。その次は英國

フランス、ドイツ……しかし、アジアの中では日本だけですからね、これからですよ。今まで一番

障害があつたのは外貨問題だと思ふんです。それとバースポートの発行が制限されていた。いわば鎖国状態ですからね。それが自由に外出されることになった。これからは変ってくると思いますね。

☆やはり冒険と恋愛とは……

足立 冒険のすすめですね。

鹿島 結局、戦争も外に出る力です。

鹿島 そういう力がアドヴェンチャーとして、若い力がアドヴェンチャーといふことは、国が栄えていくということです。

足立 あなたの結婚の場合にも、あてはまるんじゃないかな（笑）

鹿島 えらくまた、話が飛躍しましたが（笑）

足立 奥さんを略奪したんじやないかと思いますけど（笑）そうじやないですか？

鹿島 いやいや、かけおちしたんですね（笑）お互の意志ですよ。しかし、結婚といえば、冒険じゃないですか、ある意味では。太平洋を横断するより、もっと冒険じゃないですかね。

足立 そりや、もう分らないんだ

力に応じて、海洋探険とか冒険の数が比例しますね。やっぱりア

鹿島 冒険は未知の世界に対する挑戦ですか。

足立 奥さんと一緒になつたのは？

鹿島 職場です。やっぱり周囲が反対するのを押し切つて？

鹿島 まあ、そうです。いや、これで分りました。やはりぼくの人間考察にまちがいはなかつた！

足立 文学者の中にも、小林秀雄とか川端康成とか、鋭利な頭でやってくるのと、大宅壮一みたいなのがあるが如くね。アドヴェンチャーモード、だいたい後者ですね。

鹿島 ほくらもそうありたいと思いますけど、あなたみたいに度胸と体力と才能がありませんからね。本でも読んで冒険せな、しようがないナ（笑）

△

△

△

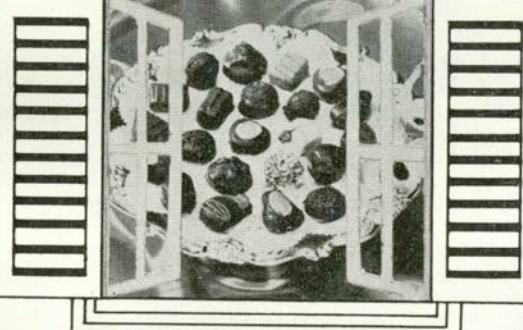
△

△

△

△於オリエンタル  
ホテルにて▽

FANCY CHOCOLATE



チョコレート\*キャンディ

**ゴンチャロフ**

神戸市生田区加納町4の1

直売店 さんちかスイーツタウン／大丸  
そごう／三越／阪急／各百貨店

ハイセンスなめがね……  
おちついたおしゃれ  
それは神戸眼鏡院の  
ワールドフレームで  
おたのしみ下さい



おしゃれめがねの……

**神戸眼鏡院**

元町店・元町3丁目 ☎③212~3

三宮店・さんちかタウン ☎⑨1874~5



- 誠実・誠實なる夫は給料をそのまま女房に渡し、あらためてお小遣いをいただく。給料をかせいでくるのは夫であるが、その金を流通（浪費）させるのは女房である。

●誠実なる夫は一日の仕事が終ると、ただちに伝書バトよろしくまつすぐ家に帰る。女房が里帰りでもしようものなら変態的目付で女をながめ、夢遊病的目付で町をぶらつき、さまよい歩く。

●誠実なる夫は女房に赤ちゃんとが欲しいといわれると、自分たちに輪をかけたような劣等なる子供をつくり、人間の動物的本能の一部をまるだしにし喜ぶ。人類の進化を考えるだけの余裕はまったくない一生のほとんどのエネルギーをただその子供のためにそそぎ、子供のためにという小世界に住みつくものなのだ。文明の進歩がそのような馬鹿な子供の中から発展していくものだけれども……。

●誠実なる夫が自らの住居として選らんでせまい部屋の中にむつりちよこなんと食事の出来るのを待っている姿は悲しげであり、そんな光景を人は愛の巣といい、私たちのシャトーなどと馬鹿げたことをいう女房が、少ないスペースの中にもう一人存在していることを忘れてはならない。

●誠実なる夫の中に男や女（女房以外）にもてるような男はない。とりかえのつかない不幸（結婚）をばやき、自分の無能に不満をもち、その不満を正当化しようとする努力はそばで見ているものにとつて喜こぼしい。

・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実・誠実 / 男の気持 ⑧ 誠実 向井修二<画家> / 誠実・誠実・誠実・誠実・誠実

## “今日に生きる”田中千代のモード

「皇后さまのデザイナー」という田中千代さんには強いイメージがあります。

神戸つ子にとつてのもう一つのイメージは、「神戸が育てた世界的なデザイナー」という親しみ深さでしょう。

それは先頃、本誌に寄稿された随想のなかでも「神戸は、私の第二のふるさとでもいまいましようか、仕事の誕生地です。そして私の仕事を今まで育ててくれた温かいゆりかごでもあつたわけで、神戸という言葉を聞いただけで自分の仕事の赤ちゃん時代、幼稚園、小学校と、その年輪が頭の中に浮かんでくるほどなつかしく思われます。」と服飾界への出発点が神戸であったこと、仕事が大人になっていったのも神戸であったと、ふるさとへの愛情をこめて書かれていました。

七月八日。田中千代学園三十五周年記念の田中千代作品「一九六七・江戸からSPASE AGEへ」というファッション・ショーが大阪フェスティバルホールで開かれ

ました。三十五年間に蓄積されたモードへの感覚が、一時間ほどの短時間に楽しく、花やかに、さわやかにまとめあげたら舞台は、世界的な田中千代さんの力量だとあらためて感嘆したのです。

スタッフは、演出に鴨居玲氏、照明・上地一夫氏、音響効果・沢田春夫氏という方々が担当して、大変モダンな、シャープな構成でした。いわゆる総花的なファッショニ・ショーカーの花道をあるく舞台形式のものではなく、モデルをモダン・ミュージカル・ショーカーとして、すべてのシーンが、静と動の、音と色と光りのある絵に処理されています。

また、装置も簡潔な、濃淡グレイの抽象的な装置で、床をデザインしてあるのがフレッシュ。舞台にひろがりと立体感がみられました。

田中千代さん自身が、きもの姿で解説されるのも面白く、スラリとした品の良い姿、柔らかい微笑みとユーモアを織り込んだ語りかけはさすがです。

「私も三十五年、モードの世界に生きてまいりましたが世界中も、日本も変わつてしましました。私たちは、今日生きています。今日に生きるということは、今日」をモードのなかに生かすこと。このステージをご覧になつて『ああ今日だな』と感



今度は遊びましたと田中千代さん

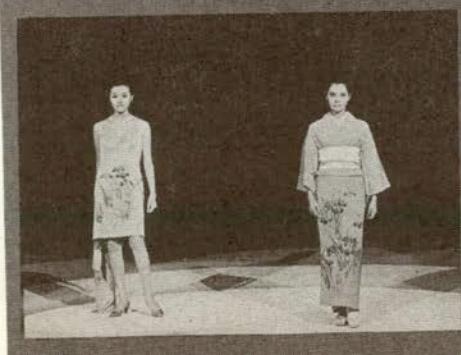
じていただければと思います。伝統を江戸からしほって三〇〇年のへだたりのある素材に新しい現代のいぶきを吹きかけて、今日のなかに生かすこと。また、現代は新しいメタリックな素材の可能性いろいろ試してみたいと思いました。おしゃれは昔から今日も、これからも、いつまでたっても女人の人のある限り存在することでしょう」と、女の「美しさへ」の限りない貧欲さと現代の多様性の入りまじった日本のモードの可能性を話されたのが印象的でした。

プログラムは現代をテーマの「黑白メタリック」の舞台では、アルミ、エナメルなどの現代の非情さを、黑白の円と直線を生かした若いエネルギッシュなデザイン。江戸時代の宗達や光琳の絵を現代に生かした格子やあやめ・梅・竹・波などのデザインには、日本人のきものの中に季節を楽しむ風情や、風景をか愛でる歌人の繊細な感覚、花ずれの情緒などが生かしてあります。「カラーファンタジー」ではメキシカンルック「ルミエール」ではファイバーオブティクによる世界で初めといわれる、光のドレス・光線のドレスを実験してみせますし、ペーパードレスのカラフルな楽しさ、吉原つなぎや、かまわぬ、ひょうたんなど江戸庶民のユーモラスなタッチをバ

ンタロンスタイルで表現するとなちまち現代に生まれる服になるのです。そして、「デザインの魔術」を歎ぎればいい、軽やかなリズムの中で次々にくりひろげました。「三十五年もマジメにやって来たんだから遊んでもいいでしょう」と幕間のロビーで教え子にとりかこまれていらっしゃる田中千代さんはますますお若い。

「現代はいろんな矛盾にぶつかるときでしょう。絹ずれの音が、アルミ泊ずれの音にかわってきた機械文明の時代です。でも機械につかわれてはつまりません。昔は柄も一柄一柄がきれいいで、一人一人が廊下を歩いていたのです。現代はマスできれいで、ラッシュのなかを何十人何百人が歩いているんです。また西洋と東洋がごっちゃになつた日本人は、それぞれに、ぶつかつたなかで自分の正しい道を掘んでいかなくてはいけないんですね」伝統を今日に生かし、機械文明に挑戦してゆかねばならない現代の複雑さ、この時点にカチンとシャッターを合わせた田中千代さんのモードの世界は、やはり神戸という町が持つた港町の国際的な多様性のなかでいち早く身につけ育つた現代感覚が、世界的なスケールを持つデザイナーとして、磨き抜かれて行つたということではな

田中千代作品 1967 のステージ



# 神戸遊戯誌 48

## ☆よみがえらせたいポート隆盛の夢

「オール持つ手に花が散る」とか「オール持つ手にホタル飛ぶ」とかいった歌が作られたのは大正初期だが、今日ではそんなロマン調よりも勝敗と記録がなんといっても最高の念願となっている。戦前学校クルーで強かつたのは兵庫県下では神戸商大、御影師範、洲本中などだつたが、戦後は相生産業、柳高校、洲本高校などが強味をみせていく。実業団では関西選手権で国鉄鷹取工機部がずっと優勝をつけたし、昭年十七年に明治神宮の全国大会で優勝したほどだが、戦後は播磨造船がぬきん出て強く、全日本実業団選手権大会の固定席艇の部で昭



昭和11年関西選手権で優勝した当時の実業団チームの雄、  
国鉄鷹取工場チーム

ボート②  
青木重雄

和二十六年から二十九年まで連続四連勝、さらに三十二年にも覇権を握っている。

終戦直後いつとき神戸一中（現神戸高校）クルーが活躍したが、二十四・五年ごろ兵庫県下ではじめて開かれた全国高校選手権大会のナックル・フォアの部（高松一淡路・由良間レース）に出場して氣を吐いた。また、大学はダメで国体で甲南大学が一回三位にはいった程度で、総体にパツとしない。ただし大学同士でいろいろ対抗レースが催されるようになったが、関学大・関大対抗リース（大阪・桜の宮附近の川）、甲南大対学習院（瀬田川）、関学対神戸商大、神戸商大対大阪商大などでいずれもエイトである。ところで、兵庫県漕艇協会（現事務所）須磨高校内）が昭和二十年春に、神戸市漕艇連盟が三十二年にそれぞれ創設されたが、今日まで連絡事務と共に地方クルーの育成と指導に努力を傾けている。

さて、最近の現状だが、高校ではやはり柳高校（なお、同校には県下唯一の女子クルーがある）や神戸高校が代表チームで近畿でも強い。全国でのAクラスは北海道、東北、滋賀県、愛媛、鳥取、島根などだが、昔強かった東京の諸クルーはダメである。社会人クルーでは相生の播磨造船が出色であることは前に書いたとおりだが、神戸市には當時クルーがないといった寂しさである。伝統の国鉄鷹取工機部はボート・ハウスが得られないなどの理由で昔の面影はないし、神戸市役所チームも完全にタルんでしまっている。全国の強クルーといえば東洋レーヨン（滋賀県、エイト）、トヨタ自動車（愛知県、ナックル・フォア）、古河電工（東京）、東京トヨタ（エイト）、大阪大丸（エイト、舵手付きフォア）などである。大学となると実業団以上に不指でわずかに関学OBが昭和三十年の全日本社会人選手権で優勝したのがめつ程度である。このように、高校、大学、実業団、社会人を通じてよいクルーが生まれないのにはいろいろな理由があろうが、なんといっても各学校、各職場ともいつもつボートに熱意を持つていないことが最大の理由と

いえよう。ことに職場の場合、県下の大、中企業が、戦前の川崎造船所や三菱造船所ほどボートはもちろん他のスポーツについても関心を払っていないことが挙げられる。有名選手を会社に入れて社名PRの一助にしようとした昔の風習は、ほんの一部の会社工場を除いて、神戸市および県下ではほとんど忘れられたようである。その現われが会社のスポーツ予算の貧困化となり、ボートでいえば艇庫の不設備その他といった消極策となり、従つて有名選手は集まらないという因果論につながってゆくわけである。だが、兵庫県は南は瀬戸内海、北は日本海と向かい合う、わが国有数の大臨海県である。「われは海の子白波の……」の小学唱歌の一節ではないが、ヨットと同時に少しボートの隆盛に資する諸対策が地元の関係者の手で練られてもよいのではないか——と、ここで願つておこう。

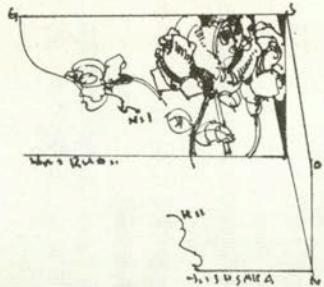
いま一度、戦後からの神戸の「ボート裏ばなし」といふたものを拾つてみよう。終戦後いち早く神戸商船大が自校でカッター試合を行つて復活のきざしをみせたが、国鉄鷹取工機部も須磨海岸で模範試合を行なつて一般の観覧に供した。また、二人乗り、三人乗りのお椀ボートをあやつつて、ボートへの夢を晴らしたボート・ファンとあつた。戦後間もなくみなと祭におけるボート・レースが復活したが、当時はよい選手の数が少なかつたため、学生や社会人チームが須磨の漁師のたくましいいたちやん連中の漕ぐボートによくしてやられたものである。また、かつて三菱造船所に村田信氏という京大クルーのOB選手がいたが、この人は昔とったキネヅカで昭和三十年ごろからボートに非常な熱情をみせ、ついにみなと祭の「市氏レガッタ」にみずからも出場したほどだった。その他いろいろな面で県下ボート界のために尽したが、こういう理解者を今後も得たいもの——と、神戸市漕艇連盟では語つている。

# 食欲淑女

文——名村喜久江  
え——石阪 春生

「大根足の女って、魅力があるな。ぐつとくるぜ」  
あまり若くない、男性同僚の意見である。

彼のいい分はこうだ。ヒザ上何歩かの短かいスカートから、すくとみ出た大根足は、女の生命力と安定感と根性の象徴であり、しかもその大根足の上方に、ほどよく肉のついた胴体と、たくましい腕と、からっぽでないおツムがついていれば最高だ、と。



この論法で

いけば、近ごろ売れっ子のツウイギー

(小枝ちゃん)のような、やせっぽち女な

ど、てんで問題にならない

のだろう。肉

を省略して、骨の上に皮を

まとったようなガリガリ姿は、アダムのアバラの骨一本からつくられたイブを連想させ、吹けば飛ぶよな、虚しさを感じさせる。

ところが当筋は、れっきとした女性、分別も才覚もあるはずの人たちが、ツウイギーに追随して、やせよう、やせようと、悲しくもおかしい努力をつづけているのだから、ほんとに嘆かわしい。肥満は死につながる——

と、医者は警告をしているけれども、平均的ニッポン人の体重をもちながら、大根足が氣にいらんとか、ウエストを蜂のようにしたいなど、ぜいたくをならべて、骨身をけずらうとするのは、ナンセンスな話だ。この人たちは、ソマ揚子か、棒つ杭に近いほど優雅であり、装いがよく板につき、男性にモテる、と固く信じているらしいが、女性が考えるほど、男性は『やせっぽち礼賛者』ではないようである。

とすると、食べものはどんどん食べ、飲みたいものはバカバカ飲み、その分だけ生命力の火を燃やして、ボルテージの高い女性になつた方がよさそうだ。

少食な女は見た目もスタミナがなく影がうすい。とかく消極的で、内向的で、悲観論者が多いことをみても淑女はまず、よく食べ、よく飲み、よく消化して、発潮とした生き方をすることが基礎条件である。

そこで、大いに食べることには大賛成であるが、淑女たるもの、やはり食べ方の美学、に無神經であつては困る。

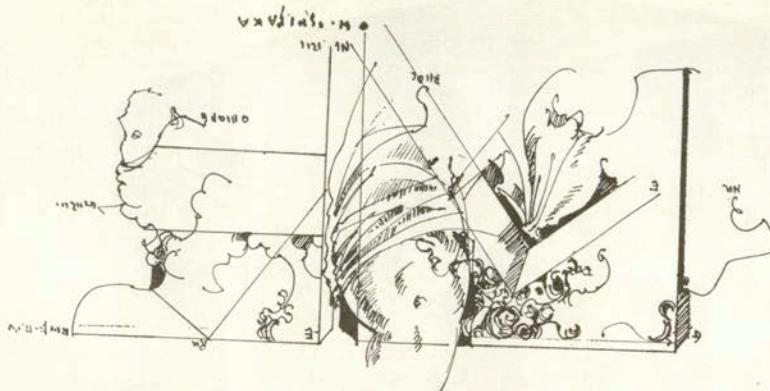
たとえば、食べるスピードである。ものを頂くとき、とかく女性に多いのは、ノロノロ型だ。

「なぜか食欲がなくって」「やせるために涙をのんで」

などと、いいわけがましいセリフをつぶやきながら、ネチネチ、モソモソ、ノロノロ、イヤイヤの風情で、ほんのちょっぴり頂くタイプである。お皿の上をませちらし、器の中のをこねまわし、迷い箸やら移りフォア、さぐりナイフといった合いの手たっぷりに、ゆっくり、

ちょびちょび食べている。

こちらが食べ終わってフト顔をあげると、まだ半分以上をもてあましながら、冴えない顔をしている。こんな相手と食事をするのはいやはや、人災そのものだ。彼女が食べ終わるまで、ボカソと待つ身のつらさ、うらめしさ、格好わるさは、ほんとに想像以上のものといえよう。ふと、自分自身を、ガツガツと浅ましい食べざまでは



なかつたかしら」と疑い、冷や汗をかいてしまうことさえある。食事の相手にこんな自己嫌悪を抱かせるようなノロノロ型は、淑女の風上における、と私は思う。

それに反して「もの食いのいい人」というのは、見ていて実に快い。目の前に出されたものを、きれいしさばかり、楽しそうに平らげられると、人生が明るくなる。浮々とする。

割り勘の場合はもちろんだが、もしオゴる場合なら、もの食いのいい相手に当るか、ネチネチ型に遭遇するかで、上下、えらいちがいである。気分が、味が、そして消化が！」。

料理がうまいことは、淑女の資質の一つではあろうが、もっと大事なことは、それを味わうデリケートな舌であり、丈夫な胃袋であり、緩急その所を得た食べっぷりであろう。

昔、人間がまだ毛皮をまとい、洞穴に住んでいた頃には、ものを食べる姿を他人（または他の動物）に見られることを好まなかつただろう。食べる事に熱中していたら、後からボカソ（またはガブリ）とやられるかもしれないし、うまいものを横どりされるかもしれないからだ。無防備は死につながる。

しかし、いまや人類は、ともに食べ、ともに飲みすることを、人生的の歓びとして、社交の一つとして、人間交流の場として、芸術化することに成功している。キヨロ、コセコセ、ドキドキすることなく、ゆうゆうと健啖をきそい、話題を香辛料にして、人生の至福を味わうことが許されている。

だから女性も、少食イコール優雅、などとカンちがいすることなく、カラッとした陽気に、食い氣をエンジョイすべきである。そして、ふくらと豊満な、包容力に富み、堂々たる食欲の、大型淑女に育つべきなのである。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ グループでスコール!! ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

神戸日石カルテックス

発売所グループ



サンタリー・ラウンジ

私たちの日石カルテックスは日本石油のスタンドのチェーンだが、全国で4300ヵ所ある。このなかで毎年、優良給油所のコンテストが開かれ、三宮SSは大阪支店管内の第1位、兵庫SSは4位に入賞した。この優勝祝いにいつも利用している。安く、ビールがワンとのめるスカイサントリーで祝杯ということになった。“勝って兜の緒をしめよ”と心をひきしめてのむサントリーの“純生”は無性にうまい。料理のごひいきはポークシチュード。若い人々が多い私たちのスタッフのいこいの場所でもある。

<日本石油KK特約店・神戸日石カルテックス発売所 専務取締役 田中啓夫>

飲みほうだい！**サンタリービール**+食べほうだい！**北欧風ヴァイキング料理** 1,000円（飲食税 100円別）



なごやかな  
ムード  
すばらしい  
眺望！

ビヤレストラン  
**スカイサントリー**  
三宮交通センタービル9階 TEL ⑨ 3705~6